

(様式 1-5)

会津美里町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和 6 年 1 月 10 日時点

※本様式は 1-3, 1-4 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	戦国会津美里向羽黒山城魅力全開以心伝心事業	事業番号	A-1
事業実施主体	会津美里町	総交付対象事業費			21,145 千円
既配分額	16,422 千円	当該年度交付対象事業費			4,723 千円
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業①情報					
① 情報発信事業					
小計 4,723 千円					
i) 風評動向調査 千円					
ii) 体験等企画実施 千円					
iii) 情報発信コンテンツ作成 4,723 千円					
iv) ポータルサイト構築 千円					
②外部人材活用					
小計 千円					
i) 企画立案のための外部人材の活用 千円					
ii) 地域の語り部の育成 千円					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修 千円					
風評の払拭に関する目標					
令和 8 年の観光客入込客数 2,180,000 人 (震災前、平成 22 年の 5%増)					
事業概要					
事業実施主体	会津美里町				
主な企画内容	国指定史跡向羽黒山城跡と歴史ゲームのコラボレーションによる情報発信				
主な事業の実施場所	会津美里町内				
事業の実施期間	R4 年度～R7 年度				
企画内容					
【現状・課題】					
<現状>					
○ 震災以降、風評を払拭し、会津美里町に「来てもらう」ための様々な情報発信を行ってきたが、依然として会津美里町を訪れる観光客数は震災前の水準まで回復していない。					
このため、これまで以上に効果的な風評の払拭と会津美里町の魅力を発信するための各種の対策が必要な状況であり、令和 4 年度から本事業を実施し、人気歴史ゲームと提携して、向羽黒山城跡専用サイトと山城案内アプリを開発し、本事業の基礎部分を構築してきた。					
【参考】会津美里町観光客入込数					
H22 2,076,310 人					
H31 1,564,730 人					
<課題>					
○ 会津美里町は観光資源として国史跡向羽黒山城を有しており、昨今の山城ブームの中で強力な誘客のためのコンテンツとなり得るところ、現状、これを活かせていない。					
その原因として、					
① 他の観光地との差別化が図れていない。					
② 効果的な情報発信ができていない。					
③ 観光客の受入れに関して地域の様々な人材が活用できておらず、受入れ環境の整備ができていない。ことが考えられる。					

【課題に対するこれまでの取組と成果】

<取組>

○令和4年度

- ・向羽黒山城跡専用サイトとガイドアプリを構築

○令和5年度

- ・特別御城印状を景品にしたスタンプラリー
- ・雑誌「歴史街道」への連続特集連載
- ・モニターツアーの実施

<成果>

○令和4年度

- ・山城の資料や既存のパンフレットの送付希望者が明らかに増えた。また、問い合わせ先である観光協会への問い合わせが増えた。新潟県上越市などからゲーム会社とのコラボへの称賛を受けた。

○令和5年度

- ・山城の入り口に位置し、案内も兼ねる観光協会によれば、県内外各地から山城を目的地にした訪問客が明らかに増加しており、御城印状の配布数も増えている。東京からの団体ツアーの実績も2回あった。雑誌「歴史街道」への特集記事の掲載により、特設サイトのアクセス数が増えている。

また、地域情報発信交付金事業のほか、これまで以下の取組を実施。

- ① 会津美里町及び観光協会のホームページの観光ページの充実
- ② 「会津美里町観光百人衆」と呼称し、情報発信のための人材育成
- ③ 日本三大田植え祭りである「お田植祭り」など昔からの伝統行事による誘客
- ④ 新鶴ワインまつり、季節のあやめ祭りなど、イベントによる誘客
- ⑤ 日本遺産「会津三十三観音」など、寺社仏閣を巡らせるツアーの実施
- ⑥ 観光誘客を目的とした、ふるさと創生事業による温泉施設建設
- ⑦ 近隣市町村と連携しての首都圏へ、旅行会社等へのエージェント訪問

【今年度事業における具体的な取組内容】

- ① 日本最大級山城向羽黒山城まつりに有名講師や武将隊を招聘しライブ動画によりPR

実施期間：R6.6月～R6.11月

実施体制：会津美里町、委託事業者

概算費用：2,269千円

取組内容：

- 地元日本最大級山城向羽黒山城まつりの一環として、山城に造詣が深く、お城ファンにも一目を置かれる有名講師による講演や山城に関係の深い武将に扮した武将隊による演武をライブ動画で中継し、全国にPRする。有志のコスプレイヤーを募り、山城の絶景を背景にした写真をInstagramに掲載し、山城まつりのプロモーションとする。また、この山城は実戦経験の記録がないので、武将隊により実際に二の丸で模擬合戦を実施いただき、それをGoProカメラで臨場感のある兵士目線のライブ映像を発信して、有名講師に合戦の様子を解説してもらう。

合戦の舞台になったことのない、向羽黒山城の難攻不落さをライブ中継で発信することで、全国の通な山城ファンの琴線に触れる演出を施す。

また、実際の山城での模擬合戦を体験することを目玉としたモニターツアーを実施し、参加者を雑誌歴史街道や専用サイト上で募集する。参加者に山城まつりの状況や感想をSNSにより発信してもらう。参加者には、将来ツアー商品を造成する際の注意点や満足度等に関するアンケートをとり、その結果分析をコンテンツづくりに活用する。

さらに山城まつりや模擬合戦のライブ映像を編集し、専用サイトを拡張した山城まつりのページを構築するとともに、 유튜브上にアップし広告を打つ。あわせて武将隊やコスプレイヤーの SNS 発信と相互リンクを貼ることで、閲覧数を向上させる効果的な情報発信を展開する。

- ② 会津美里町観光大使へ向羽黒山城跡特別名刺配布

実施期間：R6.6月～R7.3月

実施体制：会津美里町、委託事業者

概算費用：927千円

取組内容：

- 令和6年度現在で10名、令和7年度までに15名に委嘱予定の会津美里町観光大使のみなさまに、向羽黒山城跡の特別仕様の名刺を作成し、その人脈を生かした広報活動をしていただく。観光大使は、元ホテルオーナーの支配人や芸能人や企業の代表取締役経験者など、県外の方々が多く、凝った仕様の名刺を配布し、記入されているQRコードから専用サイトに誘導し、向羽黒山城跡の魅力を知っていただく。毎年、

飽きられない内容とするように専用サイトも更新していき、来訪者の統計を取るために、引き続き来客者数をカウントするAIカメラシステムを使用する。

③ 第31回全国山城サミットへのブース設置によるPR活動

実施期間：R6.6月～R6.12月

実施体制：会津美里町、委託事業者

概算費用：537千円

取組内容：

- これまでに31回開催され、山城を抱く全国の自治体や関係者が一堂に集う、全国山城サミットに参加する。6年度は島根県益田市で実施する予定。向羽黒山城跡を観光面でけん引する一般社団法人会津美里町観光協会に委託して、全国山城サミットにブースを設置、日本最大級の山城である向羽黒山城跡の魅力を効果的に情報発信する。具体的には、4年度に本事業で製作した人気ユーチューバーによる23万回再生の動画、パネルやのぼりを活用し、同行する郷土歴史家の解説を付して山城の大きさや魅力を解説していく。

全国的にははまだ知名度が低いので、山城の権威ある最大の集会でアピールすることで知名度を上げ、ひいては会津美里町への観光客の誘客につなげたい。

④ 歴史雑誌「歴史街道」へ特集記事と裏表紙への連載

実施期間：R6.5月～R6.11月

実施体制：会津美里町、委託事業者

概算費用：990千円

取組内容：

- 昨年も3号連続で掲載を実施したが、毎月の発行部数が6万部と影響力のある歴史系雑誌である「歴史街道」に広報を掲載する。単発に終わらず、コンスタントに雑誌広報を打つことで、より効果的な知名度の向上を狙う。今年の特集内容は、6月号に築城者である戦国大名の蘆名盛氏の特集を組み、裏表紙に2号連続で連載する。築城者にフォーカスを充てることで、山城のストーリーをより深く掘り下げることが可能となり、一層歴史ファンに向けて、印象づけるものとし、足を運ばせるような取り組みとする。併せて、6月号の特集には①山城向羽黒山城まつりの案内を掲載することで、県外からのさらなる誘客を図る。

専用サイトへ誘導するQRコードを雑誌に掲載して、これまでに開発した専用サイトや山城案内アプリなどの活用を促す。そして、会津の山城の魅力をアピールして誘客につなげ、会津美里町の魅力を知ってもらうことで、原子力災害の風評の払拭につなげていく。

【今年度事業における目標】

<アウトプット>

- ① 向羽黒山城まつりにおける有名講師の講演、武将隊による演舞のライブ配信 1回
- ② 会津美里町観光大使20名に向羽黒山城特別名刺の配布 300枚合計6,000枚
- ③ 第31回全国山城サミットへのブース出展 1回
- ④ 雑誌「歴史街道」への掲載 3回

<アウトカム>

- ① ライブ動画閲覧数 1000回
- ② 専用サイトの閲覧数 500回
- ③ ブースへの訪問者 100人
- ④ 雑誌アンケートによる特集記事の満足度 60%以上
専用サイトの閲覧数 500回

【今年度、事業の実施により得られる効果】

- ① 地元で20年以上開催されている向羽黒山城まつりで、山城に造詣のある有名講師の講演や武将隊の演武をライブ中継することで、全国の山城ファンに向けてPRができる。
- ② 影響力のある会津美里町観光大使に、特別仕様の向羽黒山城のモチーフにした名刺を配っていただくことで、効果的な広報が期待できる。
- ③ 権威ある全国山城サミットに初参加し、ブースを設置し宣伝することで、知名度を格段に上げることが期待できる。
- ④ 毎月約6万部の歴史系雑誌「歴史街道」の裏表紙に、4回にわたり掲載することで、広く歴史ファンに向羽黒山城跡を効果的にPRできる。

【次年度以降の取組】

○ 次年度以降は以下の取組を予定。

令和4年度からの取組みにより、地元有志の団体が立ち上がり、向羽黒山城を介在として、小学校を巻き込んだ盛り上がりを見せている。専用サイトやアプリなど、訪れた人を楽しませる体制はできつつある中で、事業最終年度は収穫の時期とするために、より一層の全国へ向けての広報活動に重点的に取り組みたい。

また、地場産業の会津本郷焼とのコラボ等、地域の事業者とも連携した取組を推進することで、会津美里町への観光客の一層の増加を図っていくものとする。

事業終了後も継続して町に人が訪れるようツアー商品の造成等を目指した取組みを続け、自走的に情報発信を行える体制を整備する。

【R7年度予定】

○ 最終年にあたるので、地元の日本最大級山城向羽黒山城まつりで山城シンポジウムをライブ中継し、引き続き第32回全国山城サミットへ参加し、向羽黒山城跡を全国にPRしていく。